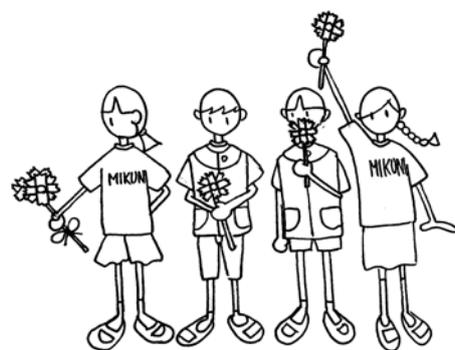


# だ み よ く り に

No.753 令和6年9月1日発行



## 「今を大切に生きること」

イメージしてみてください。

今、午前9時です。  
ままごとをしています。

「これかーして」

「やーだよ」

「じゃあいつになったらいい」

「うーん、さんじ」

「うんわかった」

「え、3時!?遅くない?大丈夫?」そう思った方がいることと思います。

実はこの会話、わたしの中で大ヒットです!いいものを見聞きできたと思わず笑みがこぼれ、忘れてはいけないとすぐに頭にインプットしました。活字より実際の話しぶりはもっとたどたどしさがありました。保護者の方は何歳くらいの会話が見当がつかましたか。活字からでも、この会話をしているのは何歳くらいかという答えに近づくことができます(みんなに個人差がありますので、答えに「近づく」という表現にします)。読み解いてみましょう。まず、大人や年長さんは答えから遠いでしょう。9時現在に対して午後3時……貸してくれるのは6時間後です。時計や時間の概念を理解しはじめると言われる4~5歳以上ですと、「遅い」「長くてずるい」という気持ちになり、この会話のように納得して済むことはないでしょう。そして、2歳くらいですとまだまだ自分の世界で生きていますし、「自分の大事なもの」という所有意識が強くて貸し借りまで難しいです。

つまり、時間や時計の存在に気づきだしているがまだ理解には至っていないこと、友だちに興味が出てきていくこと、物の共有や貸し借りを周りの大人を介して経験したことがあること、それが蓄積されていること、それ

を発揮しようとしていること……それらからすると、3歳くらいか、と考えることができます。まさに、満3歳を迎えるうさぎ組の会話です。“今まで経験したことをぎゅっと詰め込んで自分の力でやってみたよ”と感じ、もう拍手です。

子どもたちのことを見ていますと、このように色々なことを読み解くことができ、和みます。きっと、この会話をしていた子どもあと数年後には「もっとはやくかしてほしい」と交渉するなど、今と同じ会話はしないでしょう。今しか聞けない会話です。子どもたちの今の言動一つひとつを「期間限定」と表現するとわかりやすいでしょうか。そう捉えると愛おしく、宝物にしか見えません。

経験の蓄積からの発揮と書きましたが、子どもは大人の声をよく聴いています。見ています。ですので、伝わっているように見えなくても、ちゃんと伝わっています。だからこそわたしたち大人の関わり方が大切なのです。

このようなことを感じ保育に集中できているということは、今が平時だということですね。そう思うのも、まもなく防災の日を迎えることと、先日、災害対策研修を受けたことからです。とても身の引き締まる重いものでした。それからというもの、心配性なわたしの性格上、我が家の備蓄品がさらに増え、常に「今地震がきたらどうする」と問い自分自身に追い込まれていることは言うまでもありません。

それはさておき、地震などが頻発する昨今ですので、この場でお伝えしておきます。在園時間に地震などが発生した際は、迎えにいらっしゃるまでお子さまをしっかりとお預かりします。ですので、どうかご自身の安全確保をまず第一になさってください。

平時のありがたさを感じつつ、もしもの時に向けて一緒に備えていきましょう。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。